



「バス車内で生ビールで製作技術の知識があつて飲みたい」。そんな旅人宇野社長は、すぐに自行者の声を実現した携帯力で開発に着手。板金加工のビールサーバー「どこ生」。重さ9キ、電源号を完成させた。高さ1不要の氷冷式で、ビールが、重さ50キと巨大だった。だるについで約10分だが、試しに使ってもらった。でも生ビールが、軽くて小さければ売れ楽しめる。

宇野雅博社長(48)が旅る」と確信した。

行会社を立ち上げたのは、改良の焦点は軽量化に5年前。「旅行者に最高絞った。当初重いステンのおもてなしを」とビール製の板状だった冷却サーバーのバス持ち込媒体は、アルミ製パイプみを考えたが、従来のサに、ビールを中に通しサーバーは排水処理や電源で氷で冷やす方法に変更の確保が必要。重くて大した。スズで表面処理をきいたため、バス搭載は不施し冷却効果も高めた。可能だった。

実家が工作機器製造業性でも持ち運べる大きさを度重なる試作の末、女

携帯ビールサーバー「どこ生」

エムトリップコーポレーション(福井市)

バス向け小型化実現



にまで小型化を実現。商への販路拡大も目指す。品デザインは工業デザイン。ふくい産業支援センターとして知られる村田の新興業フロンティア。智明氏が手がけ、スタイ大賞にも選ばれた宇野社。リッシュなサーバーが出長は「商品を全国に広め来上がった。旅行会社などで、支援してくれた人などに8月末から販売。電車。恩返しをしたい」と話しや旅館向けなど新規市場ている。

【問い合わせは福井市北四ツ居2丁目、エムトリップコーポレーション 0776(50)1212】
.....
どんな場所でも冷えた生ビールを楽しめるサーバー「どこ生」